

2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月13日

上場会社名 株式会社ガイアックス 上場取引所 名
 コード番号 3775 URL <https://www.gaiax.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 上田 祐司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役 (氏名) 野澤 直人 TEL 03-5759-0300
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績(2026年1月1日~2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	924	5.4	34	281.0	47	159.9	41	162.5
2025年12月期第1四半期	876	14.3	9	—	18	70.9	15	59.1

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 46百万円(—%) 2025年12月期第1四半期 △17百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	8.06	—
2025年12月期第1四半期	3.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	2,303	1,313	56.3
2025年12月期	2,303	1,291	55.4

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 1,296百万円 2025年12月期 1,275百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日~2026年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,300	△5.7	250	△1.9	220	7.7	180	△17.6	35.28

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年12月期1Q	5,337,452株	2025年12月期	5,337,452株
2026年12月期1Q	234,742株	2025年12月期	234,742株
2026年12月期1Q	5,102,710株	2025年12月期1Q	5,102,710株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「(3)連結業績予想などの将来情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(四半期連結損益計算書)	6
(四半期連結包括利益計算書)	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が継続するなかで、緩やかな回復基調を維持いたしました。一方で、米国の通商政策をめぐる動向、為替相場や金融資本市場の変動、エネルギー・原材料価格の動向等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。こうしたなか、政府は「責任ある積極財政」の姿勢を内外に示し、官民投資のテコ入れによる投資不足の解消や、AI・先端技術領域の研究開発促進を強力に推進しております。このような経営環境のもと、当社グループが注力するソーシャルメディア、スタートアップ支援の各領域においては、引き続き事業機会が見込まれる状況にあります。ソーシャルメディア領域では、当社子会社である株式会社CREAVEが株式会社テレビ東京と共同で開設したショートドラマアカウントの総再生回数が10億回を突破するなど、同分野における制作・運用実績が着実に積み上がっております。スタートアップ支援領域では、政府による「スタートアップ育成5か年計画」の強化や、国内外からのベンチャー投資の促進、ならびに官公庁によるスタートアップ調達の拡大といった総合的な支援方針が追い風となっております。これにより、自治体・教育機関・民間企業等と連携した起業家育成やアクセラレーション支援への需要が継続しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高については、ソーシャルメディアサービス事業において、SNS市場の活況を背景としたショートドラマ関連の売上が伸びました。また、インキュベーション事業においても自治体案件の納品が当期間に集中したことが増収に寄与いたしました。利益面においては、円安によるAWS利用料の増加や人件費の増大に加え、ショートドラマ制作等の先行投資を継続的に実施しておりますが、当期間における増収効果および全体的なコストコントロールにより前年同期を大きく上回る利益を確保いたしました。

この結果、売上高は924,135千円(前年同期比5.4%増)、営業利益は34,612千円(前年同期比281.0%増)、経常利益は47,028千円(前年同期比159.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は41,124千円(前年同期比162.5%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(ソーシャルメディアサービス事業)

ソーシャルメディアサービス事業は、企業のSNSやコミュニティに関わるマーケティングを戦略から運用まで一貫通貫で総合的に支援を行う事業です。Facebook、X、Instagram、TikTok、LINE公式の運用から、35万人超の登録クリエイターを活かしたマーケティング支援、ストックフォトサービスを提供しています。また、Webマーケティング領域の支援として、Webサイト及びシステム、AWSインフラの構築・運用を行っています。近年は、急速に普及するショートドラマを受託制作するとともに、独自のIPを育成・拡大にも取り組んでいます。

当第1四半期連結累計期間においては、企業のSNSマーケティング支援が引き続き堅調に推移いたしました。注力しているショートドラマ領域では、独自IP『本気出すのは明日から。マジ明日』が、SNSアカウント開始10ヶ月で総再生回数10億回、フォロワー数40万人を突破し、順調に成長を続けております。また、株式会社テレビ東京と共同で開設した新たなショートドラマアカウント『これじゃ在り来たりすぎる。』では、両社の強みを融合させたデジタル起点のグローバルIP創出に向けた取り組みを開始し、マネタイズモデルの拡張が進むとともに、企業からの問い合わせも増加しております。利益面では、ショートドラマへ先行投資、円安によるAWS利用料の増加、人件費の増加等があったものの、増収による利益の押し上げに加え、全体的なコスト管理を強化したことにより、これらのコスト増を吸収いたしました。

この結果、売上高は664,489千円(前年同期比3.7%増)、セグメント利益は76,545千円(前年同期比43.3%増)となりました。

（インキュベーション事業）

インキュベーション事業は、投資先企業の株式を保有し、事業育成・成長支援などのハンズオン支援を行う「グループ外インキュベーション」と、「グループ内インキュベーション」で構成されております。グループ内インキュベーションにおきましては、これまでの社外投資実績を活かし、地方自治体等の外部団体に起業家教育やアクセラレーションを受託しております。ほか、自律分散型組織「DAO」構築支援、体験シェアサービス「aini」、海外在住の日本人が案内する「LOCOTABI」を提供しております。

当第1四半期連結累計期間においては、各サービスの通常のランニング収入に加え、前連結会計年度に受託した複数の自治体案件の納品が完了し、売上高の増加に貢献いたしました。利益面においては、事業拡大に向けて外部リソースの活用や人員体制の強化を行い、業務委託や人件費などが増加し、営業利益を押し下げることになりました。

この結果、売上高は260,341千円（前年同期比9.3%増）、セグメント利益は40,460千円（前年同期比26.4%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1.1%減少し、2,141,512千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が130,583千円、営業投資有価証券が72,666千円増加したこと、現金及び預金が252,121千円、仕掛品が60,903千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて16.4%増加し、161,771千円となりました。これは主にのれんが26,218千円増加したこと、長期貸付金が4,972千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて0.0%減少し、2,303,283千円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて0.3%減少し、613,528千円となりました。これは未払金が107,559千円、支払手形及び買掛金が26,456千円増加したこと、預り金が82,307千円、未払法人税等が19,561千円、前受金が15,234千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて5.0%減少し、376,415千円となりました。これは長期借入金が22,584千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて2.1%減少し、989,943千円となりました。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1.7%増加し、1,313,340千円となりました。これは主に利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益により41,124千円、有価証券評価差額金が5,115千円増加したこと、資本剰余金が配当により25,513千円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年2月13日に公表した「2026年12月期通期連結業績予想」にて開示しております数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,149,980	897,858
受取手形及び売掛金	359,375	489,958
仕掛品	226,958	166,054
営業投資有価証券	350,127	422,793
その他	87,213	175,106
貸倒引当金	△9,348	△10,259
流動資産合計	2,164,306	2,141,512
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,285	7,059
工具、器具及び備品（純額）	14,258	14,212
土地	4,091	4,091
その他（純額）	0	0
有形固定資産合計	25,634	25,362
無形固定資産		
ソフトウェア	25,372	23,736
のれん	25,749	51,968
無形固定資産合計	51,122	75,704
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,821	4,601
長期貸付金	170,094	165,122
繰延税金資産	855	855
その他	32,199	36,810
貸倒引当金	△145,725	△146,686
投資その他の資産合計	62,245	60,703
固定資産合計	139,002	161,771
資産合計	2,303,309	2,303,283

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	90,818	117,275
1年内返済予定の長期借入金	90,336	90,336
未払金	111,758	219,318
未払費用	110,944	94,681
預り金	94,813	12,506
未払法人税等	24,638	5,076
前受金	38,469	23,234
その他	53,495	51,100
流動負債合計	615,275	613,528
固定負債		
長期借入金	320,130	297,546
繰延税金負債	76,183	78,869
固定負債合計	396,313	376,415
負債合計	1,011,588	989,943
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	1,370,929	1,345,416
利益剰余金	△211,159	△170,034
自己株式	△68,400	△68,400
株主資本合計	1,101,369	1,116,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	174,626	179,742
その他の包括利益累計額合計	174,626	179,742
新株予約権	11,466	12,874
非支配株主持分	4,257	3,742
純資産合計	1,291,720	1,313,340
負債純資産合計	2,303,309	2,303,283

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	876,767	924,135
売上原価	406,383	389,719
売上総利益	470,384	534,415
販売費及び一般管理費	461,298	499,803
営業利益	9,085	34,612
営業外収益		
受取利息	1,062	2,297
助成金収入	6,196	7,322
貸倒引当金戻入額	—	2,835
キャッシュバック収入	2,084	796
その他	822	533
営業外収益合計	10,167	13,785
営業外費用		
支払利息	1,019	1,331
その他	136	37
営業外費用合計	1,155	1,369
経常利益	18,097	47,028
特別利益		
新株予約権戻入益	405	243
持分変動利益	—	248
特別利益合計	405	491
税金等調整前四半期純利益	18,502	47,520
法人税、住民税及び事業税	2,835	6,373
法人税等合計	2,835	6,373
四半期純利益	15,666	41,146
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	22
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,666	41,124

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	15,666	41,146
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△33,377	5,115
その他の包括利益合計	△33,377	5,115
四半期包括利益	△17,710	46,262
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△17,710	46,240
非支配株主に係る四半期包括利益	—	22

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2026年2月13日 取締役会	普通株式	25,513	5.00	2025年12月31日	2026年3月30日	その他 資本剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソーシャル メディアサー ビス事業	インキュベ ーション事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	640,266	236,500	876,767	—	876,767
外部顧客への売上高	640,266	236,500	876,767	—	876,767
セグメント間の内部売上高 又は振替高	440	1,591	2,032	△2,032	—
計	640,707	238,092	878,799	△2,032	876,767
セグメント利益	53,398	54,953	108,351	△99,265	9,085

(注) 1. セグメント利益の調整額△99,265千円は、セグメント間取引の消去66千円及び各報告セグメントに配分して
いない全社費用△99,332千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり
ます。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ソーシャル メディアサー ビス事業	インキュー ベーション事 業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	664,283	259,852	924,135	—	924,135
外部顧客への売上高	664,283	259,852	924,135	—	924,135
セグメント間の内部売上高 又は振替高	205	489	695	△695	—
計	664,489	260,341	924,830	△695	924,135
セグメント利益	76,545	40,460	117,005	△82,392	34,612

(注) 1. セグメント利益の調整額△82,392千円は、セグメント間取引の消去41千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△82,434千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	2,529千円	3,302千円
のれんの償却額	3,050千円	2,781千円